

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

6月1日 (No.46・ツバメが巣立ったよ号)

2007
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田 眞

勝手にレッドデータ of 志木 (32)

新河岸川の昭和の堤防

舟運で繁栄をもたらした新河岸川も、宗岡などの低地にとっては荒川と共に度重なる水害をもたらす川でもありました。明治43年の大水害を契機に荒川と新河岸川の改修が始まり、蛇行を繰り返していた新河岸川は、昭和5年に現在のような真っ直ぐな川になりました。富士下橋下の桜並木はこの時に築かれた堤防で、江戸・明治期の宗岡村を囲んでいた惣囲堤と現在の堤防と合わせて3代の堤防が並行し、治水手法の変遷を見ることができます。(天田 眞)

* 写真は富士下橋より下流側。左岸川側から昭和の堤防、現在の堤防、江戸・明治の堤防が並ぶ。



左の桜並木が
昭和の堤防だよ

エコシティ志木 第5回総会の報告と2007年の活動

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第5回（2007年度）総会は5月20日（日）にいろは遊学館で開催され、当日の正会員数70名に対し出席者49名（委任、書面表決含む）で、4つの議案はいずれも全会一致で承認されました。

第1号議案 2006年度事業報告、決算

第2号議案 部会の再編

第3号議案 2006年度事業計画、予算

第4号議案 役員の改選

●2006年度の事業報告と2007年度の計画

06年度に計画していた事業は概ね計画通り実施できました。当初の計画になかったものも含めて06年度におこなった主な活動は以下のとおりです。

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

- ① 西原斜面林の手入れ（清掃、堆肥づくり路づくり、下刈、野草自生地等の保全等）
- ② オオブタクサ抜取り作業（志木中生徒と柳瀬川右岸の東上線から高橋まで実施）

◆調査、研究事業

- ① 柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館（水谷たんぽを含む野鳥調査と魚類等の調査及び展示）
- ② 身近な川の一斉調査（宗岡中科学部と市内8ヵ所の水を調査、新河岸川水系56団体、全国944団体が参加）
- ③ 埼玉県内一斉ガンカモ調査（柳瀬川担当）
- ④ 「市民がつくる志木市の環境プラン」見直しプロジェクト
- ⑤ ごみアンケートと「ごみ白書」制作協力

◆観察会及び学習・教育事業

- ① こどもとおとなの自然塾（野草、ツバメ、魚、トンボとチョウ、鳴く虫、冬鳥）
- ② 講師派遣（小学校の総合学習やヤゴ救出、クラブ等）
- ③ ボランティア・NPO活動体験者受け入れ
- ④ いろは遊学館「ふれあい祭り」、志木おやこ劇場「こどもまつり」と「我らいろは忍者隊」

への参加

◆出版、広報事業

- ① 「エコシティ志木通信」「イベントカレンダー」の発行（年4回発行）
- ② ホームページ管理（エコシティ志木HP）
- ③ 活動紹介展示（催事でのパネル展示等）

◆エコツアー事業（河童のつづらの活動）

- ① お宝発見ツアー（2回開催）
- ② 第4回志木まるごと博物館お宝交流シンポジウム（川にかかわる自然と文化）
- ③ ホームページ運営（河童のつづらHP）

水と緑部会関係の活動では、西原斜面林の野草の復活、柳瀬川のオオブタクサの減少、水質・野鳥・魚等の調査データの蓄積、学校との連携の定着等、長く継続してきた成果が出てきました。

07年度は、外来生物対策として、オオブタクサに加えアレチウリの抜き取り作戦を計画しています。

柳瀬川ウォッチングでは堤防上の水族館展示は終了、魚類調査を拡大し底生生物調査、COD調査も毎月行ないます。また、埼玉県の水辺の里親制度に登録し調査地点周辺のごみ拾いも行ないます。

こどもと大人の自然塾では、参加者数の少なかった「ツバメの子育て」と「トンボとチョウ」を休会としますが、今後新しい観察会の企画も考えていきます。

●部会の再編について

保健・福祉部会は地域福祉関連の活動を続けてきましたが、05年度以降当会事業としての活動がなく06年度は部会長不在となりました。単独の部会としての活動が困難な現状のため、07年度からまちづくり部会と統合し、「水と緑」「ごみとエネルギー」「まちづくり」の3部会体制とします。

4/22
(日)

こどもとおとなの自然塾(1)

春の野草を見てみよう

春の野草を見てみようは、総勢24名で開催しました。志木私立教育サービスセンター岩沢所長の挨拶の後、3グループに分かれ、それぞれ



れ田村さん、天田さん、山崎さんの案内でスタートしました。

事前に設置された名札があるので、案内者の説明がどの植物のことなのか分かりやすく好評でした。オノエヤナギとアカメヤナギ（マルバヤナギ）の説明では、これもヤナギなの？と参加者はしげしげと観察していました。トキワハゼとムラサキサギゴケの違い、スイバの雄株と雌株の違い、ヘラオオバコの開花の様子など、楽しく観察できました。

また、外来種であるカワヂシャが大繁殖していることも分かりました。花はきれいなのですが、自然界にとっては課題ですね。（毛利将範）

5/13
(日)

志木おやこ劇場主催

第14回 子どもまつり

【柳瀬川・出前水族館】

いつも子どもたちが元気いっぱいなので、とても楽しいイベントです。柳瀬川・出前水族館を覬に来てた親御さんは、地元のすぐそばを流れている柳瀬川のような都市河川にアユが棲んでいるということが信じられないといった様子でした。

こうしたことをきっかけに少しでも身近な自然に目を向けて見直すきっかけになってもらえたら嬉しいですね。

＜今回出演した水辺の生き物たち＞

アユ・ウグイ・オイカワ・ウキゴリ・ヌマチチブ・ドジョウ・ヌマエビ類・アメリカザリガニ・ハグロトンボのヤゴ・シマイシビル・ナミウズムシ・キタヨコエビ・ミズムシ・コカゲロウの仲間など ※志木大橋周辺の柳瀬川で捕りました。（伊藤智明）

【魚？ごみ釣りゲーム】大賑わい

ごみとエネルギー部会では「魚？ごみ釣りゲーム」を出店しました。魚の形に切り取ったダンボールにごみの絵を書き、口のところに紐を通して、ビニールシートの床に並べます。釣り竿



柳瀬川・出前水族館（上）と
魚？ごみ釣りゲームの様子

で魚を釣って、魚に書かれたごみをどのように捨てたらいいのかを考えてもらいます。

ゴム長靴やスポンジなど、ちょっと悩んでしまうものは、志木市の「ごみの分別表」で確認してもらいます。

子どもたちは魚釣りとごみの分別の仕方に夢中。家族で一緒に楽しみながらごみの分別についてたくさんの人たちが考えてくれました。

（北原正代）



桜並木が続く昭和5年の堤防

志木まるごと博物館 河童のつづら館長

天田 眞

新河岸川の改修工事

●荒川の瀬替え

熊谷から下流の荒川が現在のような流路になったのは、1629～34（寛永6～11）年に行われた瀬替え（流路の付け替え）以後のことです。それまでの荒川は熊谷から鴻巣・岩槻・越谷方面へと現在の元荒川を流れていましたが、この川を熊谷南東の久下で締め切り、入間川支流の和田吉野川につなぎました。瀬替えの目的は、埼玉県東部の洪水を緩和し新田開発を進める事や、江戸の洪水の緩和等、諸説いわれています。瀬替えにより、本来入間川の川筋だった宗岡に秩父方面からの大量の水が流れるようになり、それまで以上に洪水が起き易くなりました。

●舟運に利用された新河岸川

新河岸川は、川越南部の大仙波湧水を源流とし、伊佐沼からの九十川や、武蔵野台地を流れる数々の川の流れを集め、多くの蛇行を繰り返しながら、朝霞の下内間木で荒川に合流していました。1639（寛永16）年に川越城主となった松平信綱は、江戸と川越（新河岸）の間に舟運を興し、志木では柳瀬川との合流点に引又河岸が開設され繁栄しました。

新河岸川は勾配が非常に緩く、元々蛇行が多かったのに加え、舟運のために蛇行を増やしたとも言われ「九十九曲がり」と呼ばれていました。こうした条件は舟の運航に適していましたが、一方では洪水の原因でもありました。

●宗岡村を水害から守ってきた惣囲堤

かつての志木地区では集落は台地上にあり、

川沿いの低地は河岸場を除いて建物はありませんでしたが、荒川と新河岸川とに挟まれた宗岡村は、全面的な低地でありながら古くから人が住んできました。

宗岡村では荒川と新河岸川に沿った堤防の他に、上流の南畑村からの洪水を防ぐ堤防と下流の内間木村の荒川合流点からの逆流を防ぐ堤防を築くことにより、村全体を囲む惣囲堤とし、水害から村を守ってきました。

●明治43年の大水害

荒川筋では毎年のように水害に遭っていましたが、1910（明治43）年の関東全域を襲った被害は桁外れで、水位は宗岡の惣囲堤を2mも越したと言われ、志木の台地から浦和の台地まで幅6kmにわたる荒川低地は全て水没しました。それまでも度々洪水対策の改修が求められていましたが、この水害を契機に改修工事が始まりました。

●荒川の改修

下流の工事は北区岩槻から東京湾まで21kmの荒川放水路（現在の荒川）を開削するもので、1911（明治44）年から始まりました。それより上流では、蛇行した流路の直線化、高水敷の設置、堤防の拡大補強や新設、横提（水流を弱めるために河道に向かって直角に築いた堤防）

の築造等が行なわれ1947（昭和22）年までかかりました。

●新河岸川の改修

新河岸川の改修は1922（大正11）年から1930（昭和5）年に行われ、その主目的は水害対策ですが、平常時における舟運の便も図られました。

全改修区間は荒川放水路起点の岩淵水門（北区志茂4丁目）から入間郡南古谷村大字牛子（現川越市牛子）に至る延長38.40kmに及びました。

この内の下流部では下内間木の荒川との合流点（朝霞・和光・戸田の境界点／幸魂大橋上流300m）から11.13kmの新川を開削して岩淵で隅田川に繋ぎ、荒川放水路開削とあわせ、新河岸川と荒川とは分離し東京湾まで2本の川となりました。

下内間木から牛子までの上流部は、蛇行の直線化、低水路の設置、両岸への堤防の築造等が行われました。当時は宗岡の惣囲堤と南畑の一部以外には堤防は無く、宗岡の惣囲堤が村を守るように取り囲み、川は広い堤外地を自由に蛇行していたのに対し、新たに造られた堤防は直線化された河道ぎりぎりに築かれました。堤防の高さは被害が大きくなる区域を高くし（本堤）、そうでない区域は低くして（小堤）います。

改修後の新河岸川はその延長16.91kmとなり、旧川27.27kmに対し10.36km短縮され、約3分の2の長さになりました。

直線化により水位が下がり、志木より上流では舟の運行に支障が出るため、いろは橋のすぐ下流に堰を設け、脇に船を通すための水門である宗岡閘門を築造しましたが、既に鉄道輸送の時代になっており、改修工事完了の翌年に舟運は終止符を打ちました。宗岡閘門は1979年に解体されましたが、いろは橋下流の川の中に未だにコンクリートの残骸が散乱しています。

●総合治水時代の新河岸川の再改修

改修が終わっても水害がなくなったわけでは無く、特に戦後の都市化の進行と共に再び改修が必要になってきました。20年ほど前より再度の改修が行われていて、川幅拡幅のための堤防の移動やかさ上げにより河川断面の増大が図

られています。

この再度の改修により、昭和5年までに造られた沿川の堤防・橋梁・樋管等の河川構築物は殆ど造り替えられましたが、いろは橋下流の宗岡側（左岸）には、このときの堤防が唯一残っており、現在の堤防、江戸・明治期の惣囲堤と合わせて3代の堤防が並行し、治水手法の変遷を目で見ることができます。



いろは橋欄干に付く宗岡閘門のレリーフ



樋管や橋梁等の構造物で唯一現存する砂川堀合流点の砂川樋管（富士見市）

【参考文献】

- 『新河岸川文化4号』小畑包美 1980年（埼玉県発行の新河岸川改修工事報告書の復刻）
- 『水害と志木』志木市教育委員会 1988年

2/24
(土)

第5回 こども環境フェア

平成18年度志木市こども環境博士認定証交付式

【会場】いろは遊学館【運営】志木市環境基本計画市民推進会議【主催】志木市【事務局】志木市環境推進課【来場者】延べ270名

最初に、こども環境博士認定証交付式が行われました。これは、昨年夏より志木市環境基本計画市民推進会議が推進し、希望する小学生が取り組んできた「こども葉っぱ判定士（校庭などの樹木を調査してCO₂の吸収状況を調べる）」と「キッズISO（節電やごみの排出抑制を調査・実践し省エネに貢献する）」を实践した子どもたちを「こども環境博士」として認定するものです。

対象者134名の内出席した25名に長沼市長

から認定証の交付と記念品（風力発電工作キット、エコバッグ）が授与されました。

その後、小学生4グループによる体験発表と、別会場も含めて環境関連のイベントが開催され、参加した子どもたちや市民はゲームなどを楽しみながら、環境について考える機会を持ちました。

ちなみに、この事業を中心になって推進した「志木市環境基本計画市民推進会議」は志木市の環境基本計画を推進するために12名の市民・事業者で構成された市民会議で、当会からも5名が参加しています（前号のエコシティ志木通信参照）。
(毛利将範)



←イベント会場の様子。
左から①流木工作（水資源機構）、②ごみ釣り分別ゲーム（ボーイスカウト）、③3R体験コーナー（大村商事）

4/22
(日)

黒目川・春の川まつり2007

～ 春の一日、みんなで川を知り、楽しみましょう ～

【会場】埼玉県朝霞県土整備事務所・駐車場

【協力】埼玉県朝霞県土整備事務所

【主催】新河岸川水系水環境連絡会

「黒目川・春の川まつり2007」に行ってきました。黒目川・水族館、水質調査（COD）パックテスト体験、伝統漁労・投網体験などはいつもながらですが、とても人気がありました。また、なふさん講師による紙ねんどでの「泥メンコづくり」も楽しめ、夢中になってツイツイ写真を撮るのを忘れてしまいました。今後は完成した泥メンコを使って、実際に遊んでみたいですね。

<本日の黒目川・水族館 お品書き>

・アユ・ウナギ・ウキゴリ・スミウキゴリ・メダカ・ヌマチチブ・ドジョウ・オイカワ・ウグイ・カマツカ・モクズガニ・アメリカザリガニ・クサガメ



埼玉南部漁業協同組合さんも出展していたので、今年の鑑札（木札）も買うことが出来ました。これで今年も投網を打つことが出来ます。

(伊藤智明)

3/11
(日)

第13回 河川愛護交流会

主催：埼玉県河川砂防課

去る3月11日（日）、さいたま市の「ときわ会館」において「第13回河川愛護交流会」が開催され、当会からも参加しました。

この会は、埼玉県内のそれぞれの地域で展開されている川を愛する多彩な活動が交流し、さらに広がり活発になっていくことを目的に埼玉県の主催により毎年開催されているものです。今回は、当会を含め26団体、約150名の河川愛護団体・個人・行政関係者が参加し交流が行われました。

午前中のポスターセッションには、新河岸川流域をはじめ県内各地から17の市民団体と2つの行政組織が参加し、パネル展示と事例発表・質疑応答が行なわれました。

パネル展示では、日頃の活動で集めた貴重な自然環境などの流域情報をマップに落とした力作や、アユやウナギ、カワセミ、古代ハスなどの身近な川の豊かな生き物などの写真に加えて、川の生き物調査や川まつり、出前講座などで、川で遊ぶ子どもたちの豊かな表情が多数紹介されていたのが印象に残りました。

午後は、分科会1【テーマ：河川整備、川づくり】に参加し、当会から事務局長の伊藤さんが、日頃の自然を守る活動から、地域の文化、特に川環境など水にかかわる自然と文化財をまちづくりに生かす主旨の「志木まると博物館・河童のつづら」に展開していった活動の報告を行いました。

総括として進行役の小林さん（黒目川に親しむ会）から「これからは、地域をよく知る住民自らが専門家と協力してデータを作成し提案する必要がある。市民と専門家、行政と一緒に考えることで新しい川づくりが見えてくる」という話がありました。

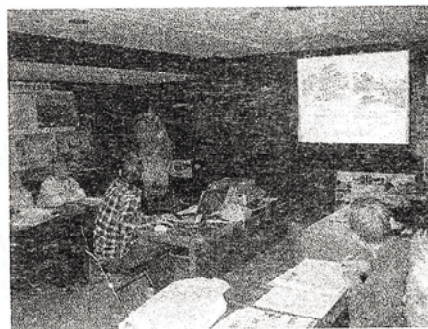
全体会では、各分科会からの報告があり、その後主催者である埼玉県河川砂防課から「魅力ある川づくりを目指して、今後も良好な水環境の保全・創造、河川本来のもっている浄



↑ポスターセッションの様子



↑分科会の様子



↑「水塚や野火止用水跡など志木には水に関わる文化がいっぱい」と、伊藤さん

化力を高める工法の研究を継続していきたい。また、河川サポーターを増やすためにMPOとの協働事業の募集を計画している。ふるって応募して欲しい」と、川づくりに取り組む姿勢と今後の予定が発表されました。

かつては自転車やクーラーまでもが投げ捨てられていた川が、地道な住民の清掃活動などにより次第に改善され、今では自分たちの街の川がどういう姿であって欲しいのかということについて住民と行政と一緒に考える時代になってきました。行政は、時代の要請により計画を見直すしくみを持つことが必要になり、住民も、住民同士の合意形成、専門家の協力を得ることにより具体的な提案を行う力量が求められています。今回の交流会に参加して、流域住民と行政が一緒になって行う川づくり自体が「流域の新しい文化」になりつつあるという印象を持ちました。（レポート：毛利将範）

埼玉県NPO基金への

埼玉県特定非営利活動促進基金

寄付をお願いします

エコシティ志木も埼玉県NPO基金「団体希望制度」に登録しました

「団体希望制度」とは、寄付をする際に、基金を通じて支援したい団体を具体的に希望することができる制度です。従って、あらかじめ「団体希望制度」に登録したエコシティ志木に対しても指名して寄付を行うことができます。

NPO基金とは

「NPO活動を促進するため、県の拠出金1億円と、市民や企業からの寄付金で運営する基金です。

基金を活用してNPO活動の法人化やステップアップ（事業実施）の財政支援、NPOのアイディアを活用する事業の実施、NPO法人の組織や運営力を強くする事業を実施します。

寄付方法

1. 具体的に支援したい団体が決まっている場合は、支援したい団体を指定して寄付できます
2. 興味のある活動分野がある場合や、一定の分野の団体を支援したい場合は、活動分野を指定して寄付できます
3. 特定の団体や活動分野ではなく、NPOを広く支援するための寄付ができます

寄付金の税法上の優遇措置

1. **個人の場合** ①所得税 ②個人住民税が一定額控除されます
2. **法人の場合** 法人税法上、寄付金全額を損金に算入できます

● NPO活動の促進のために支援をお願いします ●

詳しくは → **048-830-2839**（埼玉県NPO活動推進課）
<http://www.saitamaken-npo.net/>

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html>

《鳥類》

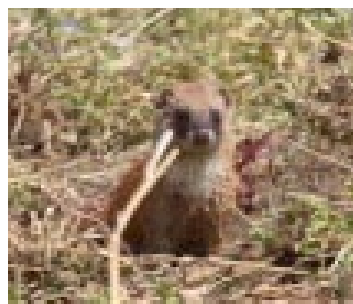
チョウゲンボウ(1) →2/9(金) 水谷田んぼ【山崎光久】
コゲラ(2) →2/17(土) 志木中学校の柳瀬川沿いの桜の木に(3/12(月)にも)【武藤邦昭】
オシドリ(♂1) →3/7(水) 柳瀬川・志木大橋付近【山崎光久】
オオジュリン(2) →3/7(水) 水谷田んぼ【山崎光久】
ツバメ(1) →3/15(木) 柳瀬川・新座団地の土手【山崎光久】
ジョウビタキ(♀1) →3/18(日) 柳瀬川【柳瀬川野鳥ウォッチングで】
タシギ(1〜) →3/18(日) 水谷田んぼ【柳瀬川野鳥ウォッチングで】
カワセミ(3) →4/22(日) 柳瀬川【毛利将範】



↑オオジュリン 3/17(山崎)

《魚類》

ウグイ(マルタ?多数) →4/15(日) 柳瀬川・ワイス裏あたり コイの産卵に混じって25cm前後のウグイも多数確認できました【毛利】



↑ホンドイタチ 3/17(山崎)

《昆虫》

モンシロチョウ(1〜) →3/18(日) 柳瀬川【柳瀬川野鳥ウォッチングで】

《ほ乳類》

ホンドイタチ(1) →3/17(土) 水谷田んぼ【山崎光久】

環境ひとくちメモ(5) 伊藤 智明

環境の日及び環境月間

1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、6月5日を「環境の日」と定められました。国連でも6月5日を、日本の提案を受けて「世界環境デー」と定めています。

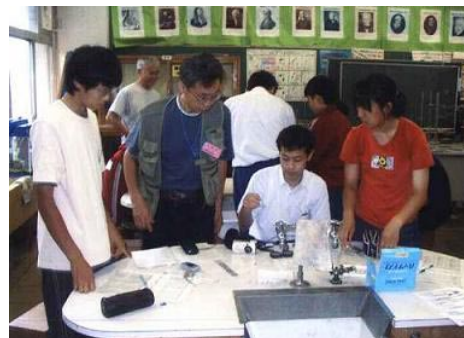
日本では「環境基本法」(平成5年)で「環境の日」を定め、多くの人たちに環境保全についての関心と理解を深めるもらい、積極的に環境保全に関する活動を行う意欲を高めるため、国や地方公共団体において、さまざまな環境保全の行事を実施すると定められています。

「環境月間」(昭和48年度〜平成2年度までは「環境週間」)は、環境庁(当時)の呼びかけで、平成3年度から6月の一ヶ月間として、

全国でさまざまな行事が行われています。世界各国でも、この日に環境保全の重要性を認識し、行動のきっかけとするためさまざまな行事が行われています。

当会が参加している「身近な水環境の全国一斉調査」も、毎年、6月5日に最も近い日曜日を中心に市民団体と国土交通省が協働して行っています。

出典：環境省 行事予定「環境の日及び環境月間」
<http://www.env.go.jp/guide/envdm/index.html>



☆会員状況

2007年度分更新済みの正会員は、
個人43、団体2、賛助1です。

■新入会員

辻範子・一晟・匡裕さん
望月仁さん
渡辺栄一さん

■カンパありがとうございました

西川武重郎さん
上田勲さん
栗林菊夫さん
吉田孝さん
片山巖さん（物品カンパ頂きました）

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2007年度分、更新
まだの方は継続をよ
ろしく願います。

★宛名シールに会費の有効期間が
書いてあります。チェックしてく
ださい。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会
黒目川に親しむ会
グループぼんぼこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木おやこ劇場
志木市コミュニティー協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

2007年度 役員

理 事	天田 眞	再任	代表理事
	飯塚 伸夫	再任	
	伊藤 智明	再任	事務局長
	加藤 智康	再任	
	金子 秀樹	再任	
	北原 正代	再任	
	小島 敏文	再任	水と緑部会長
	古谷 俊明	再任	
	三浦 真奈子	再任	ごみとエネルギー部会長
	毛利 将範	再任	副代表理事
	山口 美智江	再任	副代表理事／まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	
監 事	高橋 和夫	再任	
	吉田 孝	再任	

2007年度 予算 (2007年4月1日～2008年3月31日)

特定非営利事業に係る事業（今年度の収益事業計画はありません）

●収入

(単位:円)

科 目	予算額	備 考
1 会費等収入	183,000	
個人会費	168,000	基本会員数70名
団体会費	10,000	
賛助会費	5,000	
2 事業収入	115,000	
保全・管理・創出	0	参加費等
調査・研究	16,000	
観察会・学習・教育	77,000	
出版・広報	0	参加費等
エコツアー	22,000	
提言	0	
3 助成金収入	50,000	
志木市	0	民間助成金予定
その他	50,000	
4 雑収入	45,000	
寄付金等	40,000	
その他	5,000	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	393,000	
前期繰越金	417,948	
収入合計	810,948	

●支出

1 事業費	220,000	
保全・管理・創出	13,000	通信作成、送料等 河童のつづら関係 年間保険料負担金
調査・研究	25,000	
観察会・学習・教育	57,000	
出版・広報	55,000	
エコツアー	60,000	
提言	4,000	
保険料	6,000	
2 管理費	173,000	
租税公課	0	エコシティ志木通信を除く
旅費交通費	3,000	
通信運搬費	4,000	
消耗品費	2,000	
給与手当	0	
事務局経費	140,000	エコシティ志木通信を除く 4団体分 有料会場費
印刷費	3,000	
参加団体会費	13,000	
会議費	5,000	
雑費	3,000	
3 予備費	0	
当期支出合計	393,000	
当期収支差額	0	
次期繰越金	417,948	



【写真提供】

昔＝西塚ミエ子さん（昭和40年頃撮影）

今＝毛利将範（平成19年5月22日撮影）

写真を提供いただいた西塚ミエ子さんによると「昭和40年頃の撮影です。大水が出た次の日に、今『旧村山快哉堂』がある辺りから撮影しました。その頃はまだ市役所もできてなく、その辺りも一面海のようなでした」とのことです。西塚さんは、現在旧村山快哉堂でボランティアスタッフとして活躍されていますが、実は、実家の染物屋さんがちょうど今の旧村山快哉堂あたりにあり、「昔の実家に居るようです」と、楽しそうに当時の様子を話していただきました。

1966(昭和41)年6月、台風4号の来襲により新河岸・柳瀬両川が氾濫し柏町および本町の一部が冠水したという大きな水害の記録があります。西塚さんの写真はその時のものかもしれません。

宗岡閘門は、舟運の便を図る目的で1929(昭和4)年にいろは橋下流約5mの所に築造されました。新河岸川の特に志木から上流は水深が浅く、舟運に不便であったために、パナマ運河のように下流から上流へ通船を行う構造になっていました。また上流の水位上昇を目的に『洗堰(あらいぜき)』も併設されました。

しかし、当時物流はすでに鉄道が主流になりつつあり、閘門完成の翌々1931(昭和6)年には新河岸川舟運は廃止となっています。昭和40年当時はすでに閘門は使用されておらず、1979(昭和54)年に解体されています。その痕跡を今の写真でも認めることができます。（毛利将範）



「マップファン会員」のページ (<http://www.mapfan.com>) より

昭和40年ごろの宗岡閘門（むねおかづつもん）



毛利 将範

ハシブトガラス ハシボソガラス



←ハシブトガラス

30年ほど前のことですが、東京・練馬区に越してしばらくたったある日、ギャー、ギャーと鳴きながら頭上を移動する数十羽の鳥の集団に遭遇しました。私は広島の子で育ったために、メジロやカケスなどいろんな野鳥と接してきましたが、それらは皆、人の気配を察するとすぐに姿を隠してしまいます。このように人のすぐ近くを集団で移動するなんてビックリです。しかも今まで見たことのない鳥。

この辺りでは有名な鳥だろうと思い、食堂のおばちゃんや大家さんに聞いてみましたが的確には教えてもらえませんでした。

後でそれは特に関東地方に多いオナガという鳥だということが分かりました。こんなに近くににいるのに！こんなに目立つ鳥が！と思いましたが、無関心だったのですね。だから都市の鳥たちも安心して？人が行き交う中にその棲息場所を確保できるのでしょうか。

とはいえ、都市化が進むにつれ野鳥の種類・数ともに減少しています。オナガの集団移動にも最近では滅多に遭遇しません。反面、都市化に適応してその勢力を拡大する鳥もいます。その筆頭がカラスでしょうか。このように都市で、特に志木市周辺で人と共存しながら、あるいは人目を避けて暮らす野鳥たちの姿をこの欄で紹介していきたいと考えています。

志木市周辺で見ることができるカラスは、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種類です。大雑把にいうと、ビルの間や団地でごみ袋をついているのはハシブトガラスで、ハシボソガラスは柳瀬川周辺や水谷田んぼなどに少数が生息しています。

採餌・繁殖といった生殖に直接結びつく行動以外を擬人的に「遊び」と呼ぶとすればカラスは遊びの天才です。たとえば、私の住まいの近くの東京電力の鉄塔の先端を奪い合ったり交代でタッチし合う「てっぺん取り」遊びや、風が強い日の柳瀬川ではサーフィンならぬ「風乗り」遊びはよく見かける代表的な遊びです。また、硬い果実を道路に置いて車に割らせたり、オウムのようにしゃべるカラスもいます。

このように学習能力、環境適応能力の高いカラスですので、都会の中で勢力を拡大できているのでしょうか。しかし、その頭の良さが人に気味悪がられ嫌われるという結果も招いています。ごみを喰い散らかす、ツバメなどの雛を食べる、人を襲う、ずる賢い…と、あまり評判が良くありません。特に近年は増えすぎたカラス対策として人との知恵比べが展開されています。

都市鳥の代表ともいえるべきカラス。関心を向けてみると、その生態は意外に奥が深いです。

編集後記

◇先月、第5回総会も無事終わりました。NPO法人になってから6年目、団体設立から13年目です。おかげさまで今まで多数の会員に支えられ活動が続けてき、多くの成果を上げてきました。

◇しかし、運営スタッフの慢性的な不足という悩みは今も抱えたままです。行事にお気軽に参加していただき、楽しそうな事業を見つけ、是非あなたのパワーをぶつけてください。（ふくろう）

● エコシティ志木通信
● 第46号・2007年6月1日
● 発行

● **NPO法人エコシティ志木**

● 〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

● 電話/FAX 048-471-1338（天田真）

● URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

● E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています